

避難弱者を支援する町内づくり



【矢田学区】

■世帯数：6,502 世帯

■人 口：12,514 人

■面 積：2.173km²

平成 29 年 4 月 1 日現在

1 活動・取り組みの内容

① 名簿の作成

- ・ 避難弱者を支援するため、矢田四丁目南の「町内避難名簿」を作成。
- ・ 町内避難名簿は 4～5 年ごとに見直す。

② 「自主防災会取組事項」の確認

- ・ 自主防災会毎に、本部・巡回班・消火班・避難誘導班などが「平常時」「判定会招集時」「警戒宣言発令時」「震災発生時」における取組事項を決定。
- ・ 取組事項は 4～5 年ごとに見直す。

③ 避難訓練

- ・ 平成 23 年より学区と町内の訓練を毎年交互に行っている。
- ・ 炊き出し訓練はプロパンガスが使用できなくなったため中止し、体育館や矢田コミュニティセンター等で人命救助を中心とした訓練に変更した。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

- ・ 町内避難名簿と参加者リストを照らし合わせる事で参加者の人員確認が早くできる。
- ・ 訓練の結果を後日「防災ニュース」として回覧している。
- ・ 炊き出し用具一式やテント、倒壊建屋からの救助用に道具類を取り揃えている。

2 きっかけ、背景

東海地震がいつ発生してもおかしくない中で、矢田四丁目南町内会の高齢化が

進み、一人では避難する事ができない人が多くなってきたため、手助けをして一人でも多く避難できるように取り組むこととした。

3 実施の体制

(1) 運営メンバー

区政協力委員、保健委員、消防団員、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、町内の顧問・相談役
計約 45 人

(2) 運営協力

50 歳前後の人に声をかけ、6 班ある中の 1 班に入ってもらっている。



5 成果と課題

(1) 成果・効果

訓練を通じて住民意識が高まるとともに、住民間の交流も深まった。一世帯一人ではなく、家族全員で参加するケースが増加してきた。

(2) 苦労した点

参加者の確保、活動の担い手の不足に苦労している。また、最近は新しい人が転居されてくるが、個人情報の関係で家族構成を記入してもらえない場合がある。

(3) 今後の課題・展望

現在は、矢田四丁目南が主だが、最近は訓練をする町内が増えてきたので、さらに広げていく予定。

(4) メッセージ・アドバイス

事始めに、簡単にできる「我が家は無事」の確認訓練を一度行ってみるといい。また、今後高齢者が増え続ける中、間違いなく自力では避難できない人は出てくるので、まずは少数にて立ち上げ、次に組織表を作り、その枠の中に入ってもらい第一歩を踏み出さないと、なかなか前に進まない。

4 実施のスケジュール

H14 年 4～5 月	活動できる者を 20 人ほど集め、自主防災会を立ち上げ、巡回・消火・情報・避難誘導・放出・給食を作るなどの取組事項を整理
----------------	--



H15 年 5 月	各班の「取組事項」を担当班で作る
--------------	------------------



H16 年 1～11 月	訓練用のチラシを作り、防災用備品の不足分を購入し、所持者リストを作り、避難時に使用する名簿を作成
-----------------	--



H17 年 3 月 H18 年 10 月	避難訓練実施
-------------------------	--------



H19 年 6 月	炊き出し用具一式購入
-----------	------------



H20 年 6 月～	毎年避難訓練を実施
------------	-----------



H23 年～	学区と町内の訓練を毎年交互に実施、現在に至る
--------	------------------------